

第六十一回句会 俳句

【高点句】

- ☆余生まだ小さき夢あり蔦紅葉 〈真澄〉
☆講堂の金の把手や木の葉雨 〈莫院〉
☆空青し矢を射る音と寒禽と 〈明美〉

【各自一句】

- ・ 鶏頭やうねるゴッホの筆遣い 〈郁代〉
・ 銀杏黄葉安田講堂へと闊歩 〈一馬〉
・ 木の葉雨光を浴びて風に舞い 〈緑〉
・ 枯葉分け鯉ゆうゆうと心字池 〈真澄〉
・ 静寂を吸い込む秋の苔の寺 〈茂〉
・ 夕暮れて重み増したる林檎かな 〈哲雄〉
・ 日向ぼこあの紛争はいま何処 〈伸子〉
・ 冬日燦時計の針の影確と 〈明美〉
・ 銀杏の臭みいずこか茶碗蒸し 〈隆司〉
・ 湖水にも奥磐梯の山紅葉 〈童心〉
・ 赤門の裏潜みたる秋の蜘蛛 〈剛至〉
・ 冬うらら赤門くぐるベビーカー 〈安津子〉
・ 木枯に首すくめたる帰り道 〈徳人〉
・ 小春日や出かける前の靴磨き 〈雄記〉
・ 池端の君の残り香冬来(きた)る 〈莫院〉

*以上、43句(3句ずつ)14名、1句1名)より、選句は15名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載)